

搾乳関連施設由来排水の残留塩素除去方法の検討を行っています

畜産現場由来の排水に含まれる有機物は、活性汚泥法を用いて処理するのが一般的です。

しかし、酪農家から排出される搾乳関連施設由来排水には、牛乳処理施設やパイプラインの洗浄消毒に用いられる塩素系殺菌剤が多く含まれるため、このままでは、活性汚泥中の微生物が死滅し十分な処理が行えません。

そこで、当センターでは、活性汚泥法で処理する前に排水中の残留塩素を除去するため、還元剤や活性炭を用いた方法を検討し、使用量や耐久性、添加方法、効果の持続性などについて試験をしています。

今後、酪農家でも活用できるよう処理方法を確立し普及していきます。

活性汚泥法：好気性微生物（活性汚泥）を利用して水中の有機物を処理する方法



搾乳関連施設由来排水を
取水する装置（ポンプ）



搾乳関連施設由来排水の
残留塩素や性状の測定

高病原性鳥インフルエンザの発生に備え万全の準備

今年度、香川県の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが複数例発生し、北海道、鹿児島県では野鳥の糞などからウイルスが検出されており、全国的に予断を許さない状況が続いています。

今回、府内で高病原性鳥インフルエンザが発生した場合の当センターにおける初動対応の確認と消毒ポイントで使用する動力噴霧器の機器点検及び作動確認を行いました。

当センターでは鶏も飼養しており、警戒感を持って発生防止対策を徹底するとともに、府内の防疫資材備蓄保管基地として万全の準備を行っています。



初動対応について確認



動力噴霧器の作動状況を点検

農家優良牛の受精卵採取で改良増殖に貢献しています

当センターでは、農家で飼養されている優良牛からの受精卵採取業務を平成4年から行っています。

採取した受精卵は他の牛に移植され、牛群改良のスピードアップや優良血統の増産に活用されています。

今年度、現在までに和牛14頭、乳用牛2頭の受精卵採取を行い、26卵の新鮮卵移植*を実施し、52卵を凍結保存しています。

今後も受精卵採取業務により、優良肉用子牛の増産や乳用後継牛の改良を進め、農家経営の向上に貢献していきます。

*新鮮卵移植：回収した受精卵を凍結保存せず、その日のうちに他の牛に受精卵移植すること。



府立農芸高校では授業の一環として受精卵採取を見学

碓高原育ちの乳牛たちが酪農家へ里帰り

－ 令和2年度乳用育成牛譲渡を終了 －

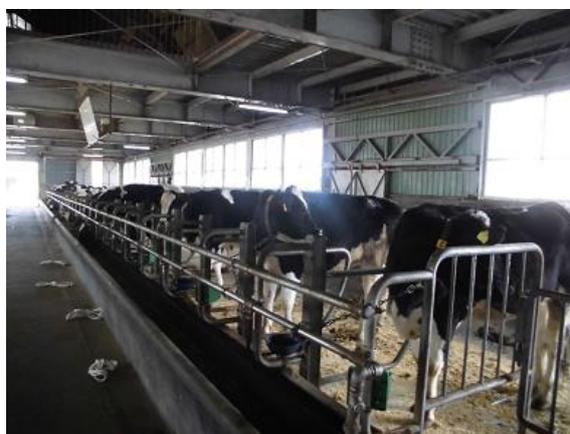
碓高原牧場では、府内の酪農家から後継牛となる雌乳牛（ホルスタイン種 2～8 か月齢、ジャージー種 12～16 か月齢）を導入後、受精卵移植や人工授精で受胎させ、分娩予定の1～2 か月前を目途に酪農家に譲渡する乳用育成牛の繁殖・譲渡事業を行っています。

今年度は、昨年春に導入したホルスタイン種 22 頭が 8 月より順次、酪農家のもとへ帰ってゆき、11 月には来年 1 月～3 月に分娩予定のホルスタイン種 6 頭と 4 月～5 月に分娩予定のジャージー種 2 頭が、無事に里帰りしました。

今後は、酪農家において優秀な後継牛としての活躍とともに、和牛子牛を分娩することで、府内産和牛子牛増産の一役も担ってくれることを期待しています。



放牧中の乳牛



里帰りへ準備万端！

畜産センター
碓高原牧場

厳しい冬に備えて牛の放牧を終了

当场では、春から新鮮な牧草の摂取と足腰強化による連産性を高めるために、和牛成雌牛約60頭と乳用育成牛約35頭を放牧しています。これから牧場が雪に覆われる厳しい冬を迎えるにあたり、最後まで放牧されていた2群15頭の和牛を11月26日に牛舎へ収容しました。

当日は穏やかな天候の中、牛たちは職員に誘導されながら1.5km先の牛舎まで駆け足で帰って行きました。

冬の間、牛たちは牛舎内でお産や子育てを行い、来春、放牧場に若葉が芽吹く頃に放牧場に出て行きます。



職員に誘導され、牛舎へ向かう牛たち



秋の放牧場で草を食べる牛たち